

民話イメージ研究の課題と今後の発展に関する考察*

The Problems of Studies for Image of Legends and Proposal for New View Point

小長井 由隆**

By Yoshitaka KONAGAI

The purpose of this paper is to arrange about problems of studies for analysis of image of legends and to propose a new view point for solving problems. In this paper, four problems are given. One is the problem of restriction to an area. The second is high abstraction of an output form the analysis. The third is the problem of which legend to choose. The fourth is the problem of the examination of subjects. And one tentative plan is protosed, that is 'Analysis of historily of city'. That could make it clear the age which have much influence on the image of the city, and could describe the process of change of the city.

1. 民話イメージの分析における仮定と前提

民話のイメージ分析で抽出されるイメージ構造とは、即ち物語のイメージ構造である。それが地域イメージと同一視できると判断できるのは

- (1)ある地域で現代まで語り継がれている民話には、その地域の昔から変わらない特性が表れている。
 - (2)読書後の被験者のイメージ構造には、民話イメージが反映しており、それは即ち地域特性の反映である。
- という仮定が存在したからである。

上記の仮定を基に、①民話的景観の分析¹⁾、②地域コグニクスを解消するテーマパークの設計²⁾、③民話内に登場する地物のイメージの関係³⁾、④民話による地域性の比較⁴⁾、というような民話イメージの研究がこれまで行われてきた。

*キ-ワ 民話イメージ、歴史性

**正会員 工修 (株)日本総合研究所

大阪マシナリ技術部

(〒550 大阪市西区新町1-33-8 ISSビル)

ところで、上記の(1)の仮定は以下のような前提を基に成立していたと思う。

- a. 対象とする地域が、民話の成立した時代から見て、歴史的に急激な変化がなく発展してきた。
- b. 対象とする地域の雰囲気(実感として感じる風土性)が、概ね一様である。

上記の a, b いずれもはっきりと定義されていないが、今までの民話イメージ分析の研究が、主に小都市あるいは開発が進んでいない地方都市を対象に行われてきたのは、以上のような理由からではないだろうか。

2. 民話のイメージ分析の研究の課題と意義

それでは、現在の様子が昔とは明らかに変わって民話的風景など少しもない地域や、開発や人口増加などで街中に異なる機能・雰囲気を持った地域が混在している都市のイメージは、民話イメージ分析の考えをもって分析することができないのだろうか。

確かに地域イメージの分析は、多方面から行われ、目的に応じて異なる手法が取られるべきである。その

ような意味から、分析の対象を民話のみに固執するのは誤りであるともいえる。

ある土地のその土地らしさを表しているものには民話を含め、自然・風習・建築形態・生活用具など様々なものがあり、いわば昔から現在まで残っている有形無形のものすべてであるといっても良い。ならばそれらの内どれを対象としても、地域性は分析できるともいえる。しかしそれら地域性を体現するものの中から何故民話を選択したのか。それは、以下のような理由が考えられる。①物語の形態をとっている為、テーマ性や物語性など、まちづくりに応用できる要素を持っている。②言語で記述されている為、抽象性の高い概念を内部に持っている。③実際の土地と関係を持っている。このような理由から、民話が分析対象として他のものより優れていると判断したのだろう。ならば、民話による分析の不十分点を補完するような手法を考慮してみる価値は十分にあるのではないか。

その考察を行う前に、民話のイメージ分析の課題点を一度整理してみる。

3. 課題の整理

民話や文学のイメージ分析の課題点は、これまでもいくつ指摘されてきた。それは、2章で挙げた対象地域の問題を含め以下のようなものである。

(1)分析対象地域が、民話の成立した時代からみて急激な変化がなく、全体の雰囲気が一様であるような地域に限定される。

(2)分析の結果が、言語による構造というきわめて抽象度の高い形ででてくる。これは上で述べたように利点でもあるが、具体的な計画と結び付けて考える場合には、解釈上難問となる。

(3)一地域に複数の民話が存在する場合、どの民話を対象として選択するかという時点で、多少なりとも恣意性が入ってくるのではないかという問題。

(4)住民を対象に実験を行う場合、被験者の居住年数や民話に対する知識によって結果が異なってくるのではないか、という被験者属性の問題。

以上のような課題すべてを一度に解決することは不可能である。しかし解決の糸口の一つとして「地域の歴史性の分析」を行うことを考えてみたい。

4. 地域の歴史性の分析とは

さて前章で述べた「歴史性の分析」とは如何なるものであるのか。ここで考えているのは、①まず現在のまちでイメージ形成上、核となる施設・地物を特定し、それらがどのような経緯で発生し、また変遷してきたかを調べ、②それらの地域内での分布と、それらが地域全体のイメージ形成にどれだけの影響を与えているかを分析する。といったようなことである。

それでは、「歴史性の分析」が、何故民話のイメージ分析の課題を解決する糸口となるのだろうか。

民話に現れている地域性は、民話が成立した時代から変わらずに維持されてきたものである(前述の仮定)。ところが、どのような規模のまちであれ、人が長く生活してきている所には、様々な時代の有形・無形の痕跡が積み重なっている。そして現代のまちには、それらが同一の空間に同時に存在し、それぞれがまちのイメージを構成する要素となっている。ならば、現在のまちのイメージを分析する場合には、民話発生の昔から変わらず維持されてきた地域性と共に、その後に関わった変化の過程も同時に分析する必要があるのではないか。そして、まち全体のイメージ形成に大きな影響を及ぼしているものの特定と、その時代性・歴史的意味が分かれば、分析の対象とする民話の特定・民話イメージと実空間の対応付け・民話分析が有効な空間の特定、ができるのではないか。

5. 終わりに

2章でも述べたように、地域イメージ研究は様々な視点からなされるべきで、民話のイメージ分析もそれらの一つの視点であり一つの方法である。しかし、地域イメージは様々な要因からくるイメージであるからこそ、分析手法もそれぞれを補完する形で考えていくべきであると思う。ここではその一つとして「地域の歴史性」を提案したが、さらに異なる視点から地域イメージの研究が提案されるべきであると思う。

参考文献

- 1)小長井由隆(1990):民話を用いた地域計画手法に関する研究,京都大学修士論文
- 2)竹林幹雄(1991):民話を用いた地域づくりに関する研究～イメージ計画を対象として～,京都大学修士論文
- 3)藤井崇弘(1992):風土分析「民話によるまちづくり」,社会工学の視点からみた都市高速道路の調査研究(その2),pp.55～75
- 4)西井和夫(1991):地域イメージとその構成に関する風土分析手法,第14回土木計画学研究講演集,pp.213～220